

英語 北海道大学 総合入試【理系】、総合入試【文系】、学部入試【全学部】

<全体分析>

試験時間

90分

解答形式

記述・客観併用

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加）

難易（易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化）

出題の特徴

例年通りの読解総合2題、英語表現1題、要約文完成1題の出題であった。読解問題は内容把握に重点が置かれた出題となっている。表現問題は英語の文章を読んだ上で英文を書くという独自の出題形式が継続されている。さらに会話文の要約文を完成させる問題も独自の出題形式が継続されている。

その他トピックス

- ・英文の総語数は昨年より400語以上増加した。
- ・大問1で出題された「正しくないものを選ぶ、当てはまらないものを選ぶ」という形式は珍しい。
- ・大問2が「論説文」ではなく「随筆文」であった。
- ・大問2が「本文の内容に一致するものを選ぶ」ではなく、「最終段落の中で筆者が最も伝えたいことを選ぶ」問題であった。
- ・大問2の小問数が6問から7問に増加した。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
1	読解総合	ユニバーサル・ベーシックインカムの利点と欠点 (728語)	1. 下線部の説明として正しくないものを選ぶ。 2. 下線部が指すものとして最も適切なものを選ぶ。 3. 下線部を日本語に訳す。 4. 下線部の内容として当てはまらないものを選ぶ。 5. 下線部の研究結果の内容を75字以内で説明する。 6. 内容に一致するものを2つ選ぶ。	やや易 やや易 標準 やや易 やや難 標準
2	読解総合	祖父母の生き方が私に与えた影響 (706語)	1. 下線部の内容に一致しないもの2つ選ぶ。 2. 下線部のように表現する理由を50字以内で説明する。 3. 2つの空欄に入る語の適切な組み合わせを選ぶ。 4. 下線部が示す人の筆者からみた間柄として最も適切なものを選ぶ。 5. 下線部の例として、内容に一致するものを2つ選ぶ。 6. 下線部を日本語に訳す。 7. 最終段落で筆者が伝えたい内容に <u>一致する</u> ものを2つ選ぶ。	やや易 標準 標準 やや易 標準 標準 標準
3	英語表現	外国人観光客の増加の恩恵と課題 (451語)	A 本文の内容に合うように文を完成する。 B 本文の内容に合うように文を完成する。 C 日本政府がインバウンド観光を推進することに賛成か反対か。(70語から100語)	標準 標準 標準
4	要約文の空欄補充	デジタル) リテラシーの世代間格差 会話文(761語) 要約文(307語)	会話文の要約文を完成する。 (空欄12カ所、選択肢24)	やや難

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として、判断しています。

<学習対策>

- ・北大の読解問題は、毎年設問形式に若干の変化は見られるものの、精読力と速読力の両方を求めている点は変わらない。したがって、正確に構造を把握し、指示語の内容を丹念に捉え、意味がはっきりしない表現や内容を文脈から判断する読み方と、論旨の流れを速やかに捉える読み方の両方の完成をめざす必要がある。英文の分量は年によってかなりの差があるので、多い方に合わせて 800 語程度の英文は一気に読み通すことができるようにしておきたい。また時間内に解き終わるためには、内容一致文・不一致文の選択肢と本文を速やかに対応させる訓練もする必要があるだろう。
- ・英語表現問題の Question A、B に関しては、設問に答えるための必要な情報をすばやく探し出し、下線部の前後の英文から書くべき形と内容を判断する。対応箇所をそのまま書くことはできないので、基本的な書き換えのパターンを身につけると同時に、表現を読み替える訓練も必要である。また、Question C に関しては、あるテーマに関して、自分の考えの根拠を分かりやすく表現していく練習を積む必要がある。しかし、そのような実戦的訓練をする前に、基本的な英文を正確に書けるようにしておくのは言うまでもない。
- ・要約文完成問題は「空欄に入る品詞」を判断し「意味」を類推することで、要約文だけでもある程度解答できるようにしておく必要がある。しかし、対話文をある程度参照した方が判断しやすい場合もあるので、「利用するかどうか」を瞬時に判断する必要がある。さらにコロケーションの知識がかなり重要になることが多いので、ふだん英文を読む際に単語や語句の使われ方に注意を払っていることが正答を判断する上で重要になる。さらに文と文のつながりを意識した読み方をする事で意味を類推する力が養われるであろう。